

スーちゃんの

1歳児

日本語で『おはようのうた』をうたい終わると

とも 「つぎ スーちゃんの」

保育者 「そうだよね！つぎはベトナム語のシンチャオ (おはよう)でうたおうね」

スー 「スーちゃんの」

といてニコニコ笑う

毎朝集会でうたっているの、周りの子もあたりまえのように

スーちゃんの国のことばを受け入れています。

楽しそうやからやりたいねん

5歳児

運動会のダンスで使うポンポンを保育室においていたら、音楽をかけ遊びはじめました

さとみ 「このポンポンはチアで使うんだよ」

はつえ 「チアは女の子だけなんだよ」

保育者 「男の子はポンポン使えないの？」

さとみ 「だってチアは女の子のダンスだもん」

かずや 「でも 楽しそうやからやりたいねん かわいいし」

はつえ 「うーん じゃあいっしょにやろ！」

おかあさんきいて

5歳児

園で怪我をしたあつこちゃん。手当をしてもらいながら、怪我のことを保育者から母親に伝えて欲しいと言いました。

あつこ 「先生。私が怪我をしたこと ママに電話して」

保育者 「うん 先生はお手紙を書こうと思ってたの」

でも あつこちゃん、自分でお話するかなあ と思っていたよ」

あつこ 「…だけど、ママはいつも“ようわからんわ”

って私の話ちゃんと聞いてくれへんねん」

一緒に持てばいいやん

4歳児

砂場で山づくりをして遊んでいる時。

保育者 「洗面器に砂いっぱいになったら運んでね～」

まさき 「まさき 一人でやるわ」

保育者 「めっちゃ重いよ」

まさき 「男やから力あるねん」

はるみ 「女も力もちの人おるよ」

さなえ 「そうやで一」

ひろこ 「重かったら、一緒に持てばいいやん」

一人では重たくて、友達と一緒に運びました。

大人も子どもも同じ

人間やのに

5歳児

クラスの友だちといっしょにお弁当を食べながら話をしている時

あき 「うちのパパ、ご飯を食べたあと、すぐにテレビの前で寝るねん。で、」

『食べてすぐに寝たらダメだよ』ってパパに言ったら

『からだを休めてるねん』って言って…

私も真似して寝たら

『食べてすぐに寝たらアカン。姿勢よくテレビ見なさい』

だって

『パパも寝てるやん』って言ったら

『大人はいいねん』って言うねん。

大人も子どもも同じ人間やのに…」

子どものつぶやき 平成27年度(2015年度)

21世紀を になう子どもたちに

次代をになう子どもたちが、生き生きと、健やかに育ち、力を合わせて明るい未来をつくりあげてくれることを誰もが望んでいます。しかし、世界はもちろん、日本においても厳しい状況におかれ、様々な差別に苦しみながら生活をしている子どもたちがいます。「子どもの権利条約」にみられるように、子どもが一人の人間として尊ばれ、よりよい環境の中で成長・発達できるようにしていくことが重要な課題となっています。

豊中市では、子ども一人ひとりが健やかに育ち、そして、子どもや子育て家庭に関わる全ての人がつながり、社会全体で子どもを愛情深く育む地域社会を実現するため、「豊中市子ども愛情深く育む地域社会を実現するため、「豊中市子ども健やか育み条例」が、平成25年(2013年)4月に制定されました。

就学前施設では、「豊中市人権保育基本方針」にもとづき、一人ひとりの子どもの人権を大切にすることを基本に、すべての子どもに豊かな感性を育てお互いを大切にすることを、人権尊重の基礎的な資質を養うことをめざした人権保育をすすめています。

「子どものつぶやき」は、人権保育の中で大切にしてきた取り組みの一つです。

子どもの「つぶやき」は
明日への期待がいっぱい

つぶやきってなあに

子どもたちは、日ごろから友だちや大人と関わって遊び、生活する中で“うれしいこと”“悲しいこと”“驚いたこと”“腹が立つこと”“求めたり望んだりしていること”など、様々なことを感じ、精一杯表現しています。このような子どもたちの中の「思い」を表現したものを、言葉だけでなく、しぐさ・動き・表情などを含めて、「つぶやき」としてとらえています。

「つぶやき」とおして

公立・私立こども園・民間保育所(園)・児童発達支援センターなどの就学前施設では、「つぶやき」とおして、子どもの生活や友だちへの「思い」をしっかりと受け止め共感するとともに、周りの友だちに伝え広げていくことを大切にしてきました。このことは仲間とともに生きる子どもを育み、さらには、一人ひとりの子どもの人権をまもることにつながっていくと考えています。子どもの姿や思いを私たち大人がしっかりととらえ、教育保育を見直しながら、子どもたちの人権についてこれからも考えていきたいと思えます。

ここに紹介している「つぶやき」は「平成27年度子どものつぶやき展」で展示している「つぶやき」の一部です。

こんなんやったんわかったわー

4歳児

あさちゃんは、身体が思うように動かさなくて寝たままです。その日も、量に寝て保育者と着替えをしています。たかちゃんとふみちゃんが、同じようにあさちゃんの隣に寝転んで...
たか 「いつもこんな感じでねてるんや」
ふみ 「おおきな音してこわいなー」
あさちゃんの真似をして同じ体験をすることで、友達が量の周りを走る音の大きさに驚きあさちゃんのことを身体で感じています。

よしよし

0歳児

お部屋でトコトコ歩いていたあゆむちゃんが転んでしまい...
あゆむ 大声で泣く
りゅうじ あゆむちゃんの大きな泣き声にびっくりしながらもあゆむちゃんをじっと見ている。そしてあゆむちゃんのところへトコトコ歩いていき頭をなでなで...
保育者 「あゆむちゃん痛かったね～でもりゅうじちゃんによしよししてもらってうれしかったね～」
突然の泣き声に、驚きながらもじっとあゆむちゃんのことを見つめるりゅうじちゃん。
いつもの泣き方ではないあゆむちゃんの様子から、「痛かった？」の思いを0歳児なりに感じていました。

いれ・て っていうてるよ

4歳児

みのるちゃんは、日ごろから友達に自分の気持ちを伝えることが苦手で困っていることがあります。ある日、ひろこちゃん、しょうちゃん、ひかるちゃんがままごとをして遊んでいるところへ、みのるちゃんが入ってきました。みのるちゃんに通せんぼしながらひろこ 「勝手に入ったらあかん！」
しょう 「いれてって言わないとダメだよ」
みのる 「...」
ひかるちゃんは、みのるちゃんの表情をじっと見てひかる 「(みのるちゃんが) いれ・て っていうてるよ」
しょう 「何も聞こえなかったよ」
ひかる 「聞こえたよ」
ひかるちゃんはそう言ってみのるちゃんをままごとコーナーへ誘いました。友達の表情を見て気持ちを汲み取り、かかわろうとする一言にひろこちゃんとしょうちゃんは言い返すことはありませんでした。

まも 守ったるから!

2歳児

おやつを食べている時に雷が鳴り出しました。すぐにみすずちゃんの元にさゆりちゃんが駆け寄りました。さゆり 「大丈夫! 守ったるからな!」
その一言でみすずちゃんは、泣かずに手を洗いに行きました。おやつを食べながらみすず 「さゆりちゃんが守ってくれるから大丈夫」
以前に雷が怖くて泣いていたみすずちゃんのことを覚えていたさゆりちゃんでした。

バイバイ

さいじ
2歳児

ゆかりちゃんは、おなかのお腹の大きなふうちゃんのママを見つけると、いつもそばに行き「赤ちゃんは？」と聞いています。

ある日…

ゆかり 「ふうちゃん バイバイ」

ふうちゃんと手を合わせてタッチする。

ゆかり 「あかちゃん バイバイ」

ふうちゃんのママのお腹にもやさしくタッチしました。

助けたらな！！

さいじ
3歳児

ある日、だんご虫が10匹ほど誰かに踏まれたのか、つぶれていました。

ひろき 「うわっ！！みてみてー

だんご虫いっぱいつぶれてるー」

あつし 「かわいそうやな…」

しばらくじっと見ていたひろきちゃん

ひろき 「救急車呼ばなあかな～」

せんせい おしたるわ

さいじ
4歳児

妊婦の保育者が子ども達と階段をあがっている時

しょう 「せんせい おなかおもたいやろ…

おしたるわ」

保育者のお腹が少しずつ大きくなっていく様子を見てきた子ども達です。

爆弾なんて いらん！

さいじ
4歳児

70年前戦争があったことを子どもたちに伝えました。弁当箱がまる焦げの写真を見て…

あずさ 「これ何なん？」

ひろこ 「石ちゃう？ 先生、これ何なん？」

保育者 「爆弾が落ちて、持っていたお弁当が真っ黒に焦げちゃった写真なんだよ」

えいじ 「え——！！！」

保育者 「こんなことが起きないように、みんなにできることあるかな？」

まゆ 「みんな誘ってにげるー」

げんき 「ばくだん なし！」

えいじ 「てっぼうも なし！」

ゆうじ 「武器も飛行機もいらん！ 爆弾なんていらん！」

だいじょうぶ？

さいじ
2歳児

手のひらにのせていただんご虫が下に落ちたとき

けいた 「だいじょうぶー？」

急いで拾い上げる

だんご虫が大好きな けいたちゃんです。

ぼくがもうちょっと大きくなったら

さいじ
4歳児

初めての園生活に緊張気味だったなつきちゃん。降園時間になり園バスに乗車すると、ほっとする様子でよく話をします。

なつき 「ぼくのお父さん、遠いところにずっと出張して
るねん。だからお母さん大変やねん」

保育者 「そうだね。赤ちゃんもいてるしね」

なつき 「うん。お母さん、こないだ赤ちゃんを一人で
お風呂に入れるのが大変で泣いてた。

ぼく、どうしていいかわからへんで…

ぼく小さいから何もでけへんで…

じっとしてた……

ぼくがもっと大きくなったら手伝ってあげるねん」

おばあちゃんたち

見えへんで

さいじ
3歳児

絵を描いている時に、たかとしちゃんの画用紙の隅に保育者が、名前を小さな字で書いた時のこと

たかとし 「そんな小っちゃい字で書いたら、おばあちゃんたち見えへんで…」

たかとしちゃんは、老眼の祖母が普段から「小さい字見えへんわ～」と言っているのを聞いていました。

たいせつ
大切なものやろ!

さいじ
5歳児

みなとちゃんは、思いが通らないことがあると自分の眼鏡を投げてしまいます。それを見ていたあかりちゃん

あかり 「はい 眼鏡とんでいったで？」

みなとちゃんに眼鏡を渡す。

みなと 「いやや。いらん。」

とお そむ
と顔を背ける。

あかり 「どうしたん？怒られて嫌やったから投げたん？」

みなと 「うん」

あかり 「でもさあ。これってみなとくんの大切なものやろ？眼鏡なくて見えなかったら困るやろ？だから、はいつけーや」

みなと 「うん……」

めがね う と
眼鏡を受け取り、かける。

みなとちゃんと仲の良いあかりちゃんは、みなとちゃんの思いを受け止めています。

す
たまみは 好きやで

さいじ
3歳児

いっしょ あそ
一緒に遊んでいて、玩具の取り合いになりました。

たくや 「もう！！たまみちゃん 嫌い！」

たまみ 「嫌いって言うても

あつちいって言うても

あそ
遊べへんって言うても……

たまみは 好きや！」

たくや 怒ってた顔が……にやあ～！

けんかをして、ふたりは仲良しです。

はい どうぞ

さいじ
1歳児

びーち ぼーる あそ とき ひとりいっこ ぼーる も
ビーチボールで遊んでいた時、一人1個ずつボールを持っていたが かずこちゃんの手にボールがありませんでした。

それを見た なりあきちゃんが

なりあき 「かずちゃん ボールないのー？」

かずこ 「……」

まわ
周りをキョロキョロしてボールを見つけると

なりあき 「はい、かずちゃん！かずちゃんの一！」

かずこちゃんは、なりあきちゃんにボールをもらおうと、大事そうにかかえていました。

だいす ともだち
大好きな友達が、ボールを持っていないことに気づき、渡そうとする

なりあきちゃんの姿 です。

ともだち おも きも つた
友達を思う気持ちが伝わってきました。

なかま
仲間と

つながっていこうとする姿

ともだちのかお

さいじ
3歳児

まっと うえ
クラスでマットの上やビニールプールの中に、ボールをたくさん入れてボールプールで遊んでいます。

なかに ねころ あそ
けいこちゃんとみほちゃんがその中で寝転んで遊んでいると しょうじちゃんがそばに寄ってきて みほちゃんの顔に自分の顔を近づけてじっと見えています。

しょうじ 「……」(じっとみている)

みほちゃんも しょうじちゃんの顔を見て

みほ 「……」

たが わら あ
ことばにはならなかったけど、お互いに笑い合っていました。

おな がげつ ともだち すこ き
同じクラスになって4ヶ月。友達のことが少しずつ気になっています。

いつも ともきのせいに
するけど ちがうで！

さいじ
5歳児

みんなで手をつないでクルクル回って遊んでいましたが、途中でみんなのスピードが速くなりすぎて、手が離れてしまいました。

よしあき 「あーあ 失敗や ともきちゃんのせいや
ともきちゃん わるー」

ともき 「ちやうで……」

よしあき 「ともきちゃんがわるいんや！」

はるな 「よしあきちゃん ちがうで

みんなが 速くなりすぎたからやで！」

よしあき 「……」

はるな 「そうやって いつも ともきちゃんのせいにする

けど ともきちゃんだけじゃないで

いま はや
今のは みんなも 速くなりすぎやった

よしあきちゃんだつてあかんかったやんか」

あそ ちゆうだん お お
ふざけてしまって、遊びを中断させることが多かった ともきちゃん。くり返し遊ぶことで、気持ちを合わせるようになってきました。

でも、何かがあると すぐに「ともきちゃん」と言うてしまう クラスの子ども達。

はるなちゃんはその時の状況をよく見て ともきちゃんのせいではないことをみんなに伝えてくれました。

いきてたのに……

さいじ
5歳児

せ わとうばん
カブトムシの世話当番にきた わたるちゃんが、ケースの蓋をあけると、カブトムシが一匹 体がバラバラになって死んでいました。体の部分をひとつずつ拾って 手のひらの上の胴体にひっつけ

ながら……

わたる 「これは あたま……

これは あし……

これも あし……」

しばらく見入って

わたる 「いきてたのに……」